

「平成27年度 主任保育士研修会」報告書

【期 日】平成27年8月6日（木）

【会 場】アバンセホール

【主 催】佐賀県保育会

【参加者数】138名

【内 容】

・DVD視聴 10:00～10:20

「一人ひとりのために」

・研修1 午前 10:30～12:00

「保育実践の可視化と同僚との対話」

講師：増田まゆみ氏（東京家政大学 児童学科）

午後 13:00～16:00 ※続き

・DVD視聴 「一人ひとりのために」～保育園は命を育む～

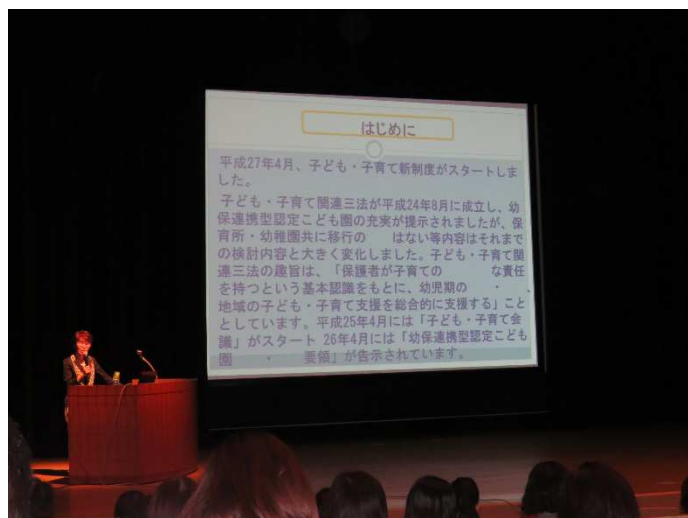
- ・友達と遊ぶことで、人との関わりを学んでいく。
- ・保育園ならではの人間関係の育み。

読み聞かせ→教育的な働き。

給食 →食事の仕方や大切さ。

連絡帳 →出来る限り保護者にお知らせする。

遊び →季節や自然を感じたり、友達関係を育む。



・研修1 「保育実践の可視化と同僚との対話」

～スタートした子ども・子育て新制度を視野に入れて～

講師：増田まゆみ氏（東京家政大学 児童学科）



《参加型研修会》

この研修は「発達と学びの連続性」という観点から「遊び」について保育実践と繋げながら可視化し、また、参加者が相互に対話を重ねながら学び合うことを目的とする。

①まず初めに《今の私を知る》ということ。

- ・保育者として大切にしていること
- ・保育者として知りたいこと、不安なこと
- ・私を支えてくれる人
- ・楽しんでいること、挑戦していること

以上4項目に対して、自分自身の考え、思ったことをシートに記載し、その後、発表。

※「常におだやかに」「感情的にならずに」「地域と共に共存していく」等、様々な意見が出る。

※増田先生より、「園に戻り、園内研修等で行ってみるのも大事。みんなで共有し、価値観をお互いに理解することができる。」と説明があった。

《保育を可視化する》

②写真を読み解く

1) 幼保連携型認定こども園の保育の様子の写真数枚。

【園庭にクッキングコーナーがあり、子ども達が包丁で切ったり、ジュースを作ったりしている。また木登りをしている姿も】

2) グループを作り、数枚の写真をもとに保護者への伝達方法を話し合う。

3) グループから1人代表で発表する。

※個人の連絡帳、保育日誌、ホワイトボード掲示、クラスだより、園だよりなどの伝達方法の意見が出た。

※写真は「今の一瞬」なのだから、写真の内容を伝える事は難しいことではあるが、写真の記録を共有し、話し合っって他者の意見や感想を聞いたり、保護者に伝えたりすること、また主任保育士として、職員との園内研修などで職員間の考えを共有する、また大切なことを伝える手段として大事なことである。

※写真を読み解き、共有すること。可視化して伝えることの大切さ。

《保育の新と真》

③保育の新と真 ～新制度の理解と保育の基本～

- 1) 子ども子育て支援新制度…子ども子育て支援法に基づく「すべての子ども・子育て家庭」を対象とした新しい支援。
- 2) 新制度での保育の基本（真）を問う…すべての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の総合的な提供を行う。

《遊びを再考する～発達過程に着目して～》

④遊びを再考する。

「テーマ」子ども達の夢中度

- ・年齢別に遊んでいる動画を視聴し、各自心に残ったことをメモする。
- ・グループから代表者が1人発表を行う。

※環境づくりの大切さ、発達に応じた保育士のかかわりの大切さ、笑顔でいることの大切さ、遊ばせるのではなく、あそぶことが大事等、いろいろな視点でとらえられている感想の発表だった。

《生活と発達の連続性・小学校との接続》

⑤生活と発達の連続性

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領

「幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が小学校以降の生活や学習の基盤につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること。」

↓

※小学校の教育・生活につながっていくことへの配慮をするよう記載されている。

「園児の発達や学びの連続性を確保する観点から、小学校教育への円滑な接続に向けた教育及び保育の内容の工夫を図るとともに、幼保連携型認定こども園の園児と小学校の児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を通じた質の向上を図ること。」

↓

小学校の教諭と一緒に話をする機会を設け、意思疎通を図り、連携を取るよう記載されている。

- ・幼保小連携でのポイント

保育・教育を担う保育者、教師の体験的・共感的理解が子どもの学びの芽生え・自覚的な学びへとつながっていく（幼児期に体験してきた遊び的要素と教科学習の要素の共有）。

《保育者の専門性の向上・保育の質の向上 子どもを見る目の育ち》

⑥今までの記録や対話を通して子どもを見る目の育ちへとつながる。

【見る→見分ける→見つめる→見極める】

・最後に保育者自身が感じる心を持つ。感情豊かになると『もっと知りたい、知ろうとする・学ぼう』とする力が育まれる。

「子どもにとっても、親にとっても、『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではない。」

レイチェル・カールソン



◎効果及び評価

記録をすることの大切さを考える研修だった。その瞬間しかわからない1枚の写真からいくつもの種類の記録の方法、伝達、共有する方法があり、勉強になった。

子ども達にとって“環境”から生まれる“遊び”はとても大切であり、遊びを通して思考力や想像力をやしない、友達と協力していくことが子どもの発達過程の中で大切なことだとあらためて感じた。

今回の研修はグループ討議だったので、他の先生方と話し合う場があり、いろいろな意見や考えも伺うことができた。

これからも子どもと向き合い、共に遊び、共感し、共に成長していければ、と思った。

(文責：六角保育園 小森由美子)